

# 中南米「建物耐震技術の向上・普及」研修コースについて(1)



独立行政法人 建築研究所

国際地震工学センター 上席研究員 犬飼 瑞郎

## はじめに

中南米諸国は、地震が頻発する地域であるが耐震建築の技術普及が遅れており、地震による建物倒壊でこれまで多くの人的・物的被害が発生している。近年では平成22年1月に発生したハイチ地震、同年2月に発生したチリ地震の甚大な被害が世界の関心を集めた。

建築研究所は、これまでも国際地震工学研修において途上国の人材の育成に大きく貢献してきたところであり、途上国の要請に何らかの形で応えるため、短期型の中南米諸国に特化した研修を実施することとし、平成25年度にスペイン語による耐震工学の短期コース開催を国際協力機構(JICA)に提案し平成26年度に本研修が実現した。

本研修では、研修生が耐震設計・施工・診断・補強の技術と制度を講義・構造実験・現場見学により学ぶことにより、自国での耐震建築の普及、及び耐震建築技術者の育成により、将来の地震発生時の被害を軽減させることを目的としている。

## 中南米諸国と本研修(H26)参加の4カ国



## 開講式



## コンクリートブロック製造工場視察



# 中南米「建物耐震技術の向上・普及」研修コースについて(2)



独立行政法人 建築研究所

国際地震工学センター 上席研究員 犬飼 瑞郎

## 本邦研修

第1回中南米地震工学研修は、平成26年6月5日～7月31日に実施されました。まず6月5日に、**開講式**が開催され、ドミニカ共和国2名、エルサルバドル4名、ニカラグア4名、ペルー4名の計**14人の研修生**が参加した。

## 在外研修

在外研修は、平成26年7月21日～7月31日までエルサルバドル共和国サンサルバドル市にある**国立エルサルバドル大学(UES)**と**私立ホセ・シメオン・カニャス中米大学(UCA)**で実施された。講義は、エルサルバドルで使用される建築材料を用いた構造実験等であり、コンクリートブロックを用いた枠組積造壁等、建築物の構造体を模擬した試験体が、地震を想定した外力により破壊されるまでの経過を、UESまたはUCAの教授等が指導した。

## まとめ

本研修は、平成27,28年も実施する予定としている。今後も、地震災害による被害の軽減に尽力することが望まれている。

## 壁試験体の加力(UCA実験棟)



## 材料試験器の講義(UCA実験棟)



## 壁試験体の加力(UES実験棟)

